

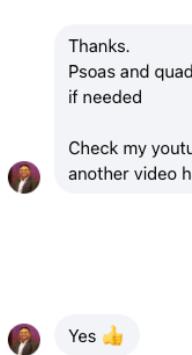
APHS, 2025 in New Delhi, India 参加報告

東京科学大学 消化管外科学分野 谷岡 利朗

APHS2025 は、インドのニューデリーで 2025 年 9 月 18 日から 20 日までの 3 日間で行わされました。会場があった JW Marriott Hotel は Aerocity という 2013 年に新しく出来た商業地区にあり、インディラ・ガンディー国際空港から近く、メトロで 1 駅という立地がありました。ホールは横並びに 3 つ用意されており、それぞれが隣接している事で会場の移動が簡単であり、好きな発表を自由に見て回る事が出来るようになっていました。

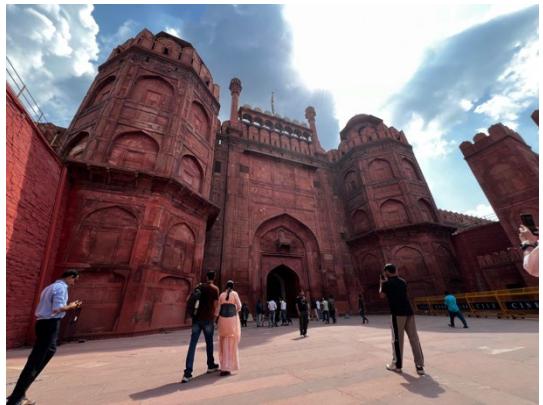
今回の APHS は発表以外に個人的な目的が 2 つありました。1 つは今年の日本ヘルニア学会に参加頂いた Sarfaraz Baig 先生にお会いする事、もう 1 つは論文を読んで連絡をとったことよりお知り合いになった Pinak Dasgupta 先生にお会いする事でした。

Baig 先生はとてもお元気であり「ちゃんと呼吸をしているか」とヘルニア学会でもお話をされていた呼吸について尋ねられました。19 日が誕生日であるとの事で Gala Dinner で皆にお祝いされておいででした。Dasgupta 先生には側方のヘルニア症例について相談に乗っていただいていました。インドではご高名な先生であったようで、今回も側方のヘルニアについて講演されておいででした。発表後にお声をかけさせていただき、「インドでお会いしましょう」という約束を守る事が出来た事がとても嬉しく思いました。



今回の学会で印象深かったのは肥満患者に対するセッションが多く用意されていた事です。インドでは肥満患者が多いようで、ヘルニア手術を行うに当たっての減量手術や薬物療法などが日本より確立されておりました。日本でもエビデンスに則った治療法を広めていく必要性を感じました。

気になるセッションが多く、インドの文化には少ししか触れる事ができませんでしたが、15 億人の人口を抱える国の熱量を強く感じました。インドへの訪問は初めてでしたが、新しくできた絆を大切に、また是非訪れたいと思っております。



APHS2025 は 11 月に日本で開催されます。来年は大阪でお会いしましょう。

最後になりましたが、今回は日本ヘルニア学会の Scholarship に応募し、このような貴重な機会を頂くことができました。国際委員会委員長 の三澤健之先生、理事長の蜂須賀丈博先生をはじめ、関係者の皆様に深く御礼申し上げます。